2012年12月号 No. 449

JCAW

Japan Commerce Association of Washington, D.C., Inc.

ワシントンDC日本商工会会報

12月号 2012年 No. 449

目次

- 「米山理事退任のご挨拶」
  幹事理事　米山伸郎・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
- 「ACTFL 2012」
  ワシントンDC日米協会　神尾 りさ・・・・・・・・・・・・・4
- ワシントン新春祭りのご案内・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
- 「DCじゃ～なる-第11回」
  袴田　奈緒子・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
- 新連載「グルマン会、ワシントンの食を語る」シリーズ
  第一回「元祖麻婆豆腐はワシントンにあり」・・・11
- ワシントン月報(第90回)：服部 健一・・・・・・・・・・・14
- ワシントンの映画好きによるリレー連載：第15回
  「ワシントンで気ままに映画を語ろう『マジック編』」
  マジックボーイ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
- 映画『ザ・セッションズ』：長野 さわか・・・・・・・・・・21
- 今月の書評「ヴィクトリー・ラボ」
  池原麻里子・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22
- 連載小説「ワシントン・スクランブル」第10話
  愛川耀・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24
- 今月の簡単レシピ：木内由紀・・・・・・・・・・・・・・・27
- English Rescue by Jennifer：
  「日本人が間違いやすい英語表現⑲」・・・・・・・・・29
- 編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・30

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

今月の特集

「米山理事退任のご挨拶」

長きに亘り、商工会の理事としてご尽力された米山理事にご挨拶頂きました。P.2～

「ACTFL 2012」

先月フィラデルフィアで開催されたACTFL全米外国語教育評議学会に、日米協会の神尾様がご参加されました。米国における日本語教育についてご執筆頂きました。P.4～

「ワシントン新春祭りのご案内」

恒例行事となりましたワシントン新春祭り。2013年度は1月27日に開催されます。皆様の奮ってのご参加をお待ち申し上げております。P.6～

最終回コーナー

袴田奈緒子様による「DCじゃ～なる-第11回」 P.8～

愛川耀様による連載小説「ワシントン・スクランブル」第10話　P.24～

新連載情報！

「グルマン会、ワシントンの食を語る」シリーズ

今月より連載スタートのこちらのシリーズは、ワシントンの食通グループ「グルマン会」の皆様より、美味たる一品やお勧めレストランをご紹介頂きます。初回は「元祖麻婆豆腐はワシントンにあり」。行ってみたくなる事間違い無し！お楽しみください！P.11～

1819 L Street N.W., Level 1B, Washington, D.C. 20036 TEL: 202-463-3947 FAX: 202-463-3948 www.jcaw.org

「米山理事退任のご挨拶」

幹事理事　米山伸郎
三井物産ワシントン事務所長

大変お世話になった皆様へ

いつも商工会の皆さまには大変お世話になっております。

わたくしの駐在期間も4年1カ月が過ぎ、12月に日本に帰任することになりました。単身赴任の生活の不便から2年程度で音を上げると思っていましたが、皆様のご支援やお気遣いを得て恙無く任期を全うでき、また感動的なオバマ大統領の一期目の勝利と、はらはらどきどきの再選勝利の両方を目撃することができました。これまでの皆さまのご厚誼に心より御礼申し上げます。

リーマンショック直後から始まった駐在期間中に米国はもとより、世界で、そして日本で様々な出来事がありました。自分の知る楽天的で強気のアメリカがこれほど悩み苦悩する姿を正直、想像していませんでした。また、AIG幹部のボーナス、ゴールドマンサックスの暴言、BPマコンド油田事故、オキュパイウォールストリートなど民衆の怒りも大変なものでした。その中でトヨタがリコール事件に端を発し随分と苦労された記憶も鮮明です。

一方で、ヒトモノカネ情報技術がクロスボーダーで流れるグローバル化が進むほどに世界中の情報と優秀な人々はむしろ益々ワシントンDCに集中していると感じ、今そこに居る幸せを感じることもできました。

ただ、私のワシントン単身赴任生活のモノトーンをカラフルで豊かなものにして頂いたのが商工会活動での皆様とのお付き合いです。

2009年2月から担当させて頂いた財務では今の米政府の先を行く財政均衡を求められましたが、会報のデジタル化等、皆さまの努力とご協力が実を結びレベニューニュートラルを実現できました。また2010年に再開した新春祭りでは会場をそれまでのJICCからホテルに移すに当たり、日本の“祭り”のイメージが無いホテル側担当との交渉に随分苦労しましたが、3回目を迎えた今年はその担当がだれよりも訳知り顔で我々の祭りの手配を指揮していたのが嬉しい思い出となります。

財務から幹事に担当替えした後の2011年3月11日に発生した東日本大震災では多くのアメリカ人から心のこもったお悔やみや暖かい励ましを頂戴しました。また会員の皆様からのご要望で寄付の窓口を商工会財団に設け、商工会全体で日本を応援したことも昨日の事のようです。そして今年春には日本の桜寄贈100周年事業として会員の皆さまや大使館、そして日系米人ほか米側の関係者と共に日米関係のさらなる発展を期待したプロジェクトを実行しました。特に将来の日米関係を担う“若手育成”のための知的交流や日本語教育支援など様々なプロジェクトを通じ、日米間で長い間育ててきた信頼、友情、そして敬意を身近に感じることもできました。

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

一方で、正直なところこの4年間は私にとって日米関係に疑問や心配を感じた駐在期間でもありました。前回、当地に駐在していた1990年代初頭では「日本礼賛論」、「日本脅威論」、「日本異質論」などが飛び交い、良きにつけ悪しきにつけ米国の日本に対する関心が高かったものが、今回は、それは全く影をひそめ、たまにメディアに登場する日本は、「失われた20年」、「巨額の財政赤字」、「少子高齢化」、「改革を実行できない混迷する政治」など、ネガティブな文脈が殆どの印象を持ちました。事実以上にネガティブイメージが先行しているのは、それだけ日本からの情報、特に英文情報発信が不足していると感じ、桜100周年事業などを契機に商工会活動等の範囲で皆様と共に日本のポジティブブランドのプロモーションが多少なりとできればと思ったのも事実です。

ワシントンで見る他の国々の積極的な英語情報発信に比べるとやはり日本のそれはかなり見劣りする気がしました。他人の芝生・・のせいかもしれませんが・・。日本からですとやはり海外慣れされている大学の先生方が最も効果的に日本情報を英語発信されていたと感じましたが、これを政官財メディアにも広げて行く努力が今後益々大切になると感じます。特にグローバル化が進展すれば、日米間の話題のみならず、それ以外の世界情勢に対する認識、対応策、連携案など相談事は山ほどあるはずで、これらをどんどんこなして行くためにも英語での対話の生産性向上が格段に望まれると感じました。

いずれにしましても、この桜100周年事業関連ではそれまで意識しなかった世界の中の日本と日本人、日米関係の本質やあるべき姿等、答えのあるようでないテーマを関係者と議論する機会を頂いたことが財産となりました。日本に戻りましてもその経験を大切にして活動して行きたいと思います。

皆様には本当にお世話になり感謝申し上げます。ぜひまた何らかの形でご縁を続ける機会があります事を期待しております。文末で恐縮ですが、会員皆様とご家族の明るい未来と健康を祈念しております。有難うございました。

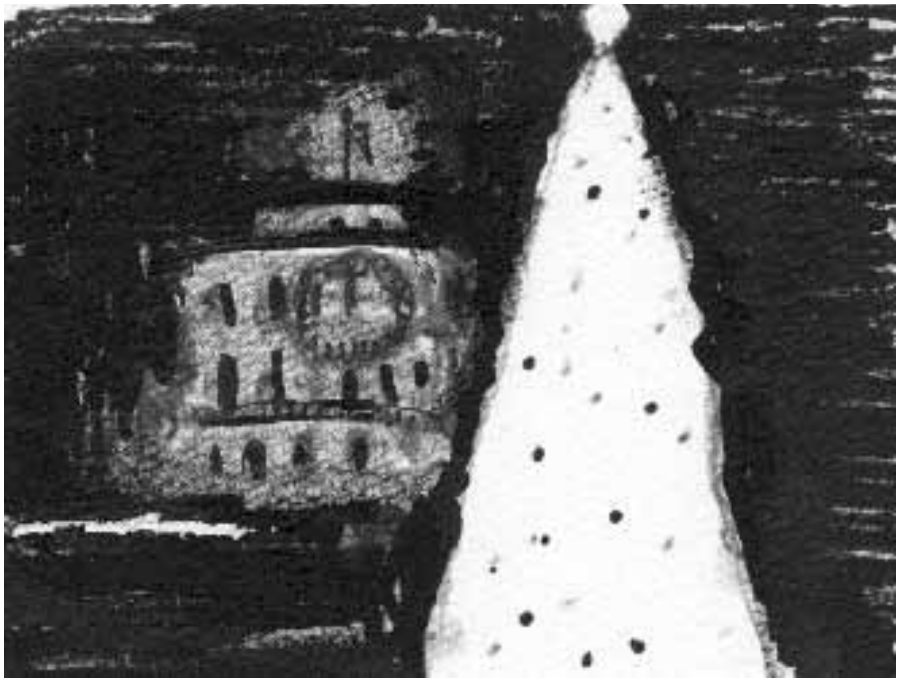


イラスト: Emi Kikuchi

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

「ACTFL 2012」

ワシントンDC日米協会 教育プログラムディレクター 神尾 りさ

11月16日～18日にかけて、フィラデルフィアで開催されたACTFL全米外国語教育評議学会に参加した。ACTFLとは、The American Council on the Teaching of Foreign Languagesの略で、1966年に設立され、外国語教育におけるガイドラインやスタンダードの設定、リーダーの育成や教授法の指導などをおこなっている。全米の外国語教師のほか、研究者や政府機関関係者など約1万2千名が会員となっている。今回の学会には、日本語教育関係者約200名を含め、外国語教育に携わる数千人が参加した。

【ジャパンボウルプロジェクト】

今回ACTFLに参加した主な理由は、毎年日米協会がワシントンDCで主催してきた全米ジャパンボウル大会を、今後は全米各地で開催していくための発表の機会が与えられたからだ。ジャパンボウルとは、全米で日本語を履修するアメリカ人の高校生を対象にした、日本語・日本文化全米大会のことで、毎年4月に約200名の高校生がワシントンに集合し、日本語や日本文化に関するクイズ問題に挑戦する(www.japanbowl.org)。優勝チームには日本研修旅行が与えられ、名誉総裁の高円宮妃殿下との謁見の機会もある。このジャパンボウルを今後全米各地で開催し、より多くの高校生に日本語学習の奥深さや醍醐味を体感してもらうため、昨年から国際交流基金日米センター（CGP）の支援を受けて、このJapan Bowlプロジェクトを始動させた。

ACTFLが策定した外国語教育の基準には、次の5つがある。

1 Communication コミュニケーション
2 Cultures 文化
3 Connections コネクション、関連づけ
4 Comparisons 比較
5 Communities コミュニティ

ジャパンボウルでは、この5Cのガイドラインにそったクイズ問題を作成し、学生が楽しみながら向上できるよう心がけている。

2012年全米ジャパンボウル大会レベル3優勝校、ヴァージニア州トマス・ジェファーソン高校

またジャパンボウル大会は、日本語教育関係者のみならず、政府機関、ビジネス、日本人留学生や地域に住む日本人などが一同に介し、将来の日米関係のリーダー育成を支援できる場としても位置づけられている。来年以降、カリフォルニア、ボストン、ユタ、ウェストヴァージニアなどでの開催が計画されているが、今後はさらに多くの場所で開催し、次世代の日本語教育を支援する新しい枠作りを目指している。

【21世紀のグローバル、ソーシャルスキル】

ACTFL期間中には、日本語教育関連だけで約35のプレゼンテーションが行われ、学生の発表能

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

力を改善させるためのノウハウから、授業中のiPad活用法まで、様々な角度から知識と情報を共有する機会が設けられた。中でも、カリフォルニア大学サンディエゴ校教授、當作靖彦先生が提示した、「21世紀のグローバル、ソーシャルスキル」には、創造力、改革力、好奇心、想像力、問題解決力、決断力、柔軟性、機敏性、協調性、統率力、多文化間のコミュニケーションなどがあり、日本語教育現場においても、現代社会を生き抜くのと全く同じスキルが必要とされていることを認識させるものであった。

また、ヴァージニア州、ジョージメイソン大学の蘇寿富美准教授からは、ワシントン日本商工会財団の日本語教育支援について紹介された。4月に行われた「Global Opportunities through Japanese Language」と題されたシンポジウムや、今年度から開始したサクラグラントの説明には、全米の教師から羨望の声があがり、他都市における日本語教育の支援には未だ開拓の余地があることを知ると共に、ワシントン日本商工会の活動をモデルとして、更なる発展が望めるのではないかなどと考えさせられた。

【今後の日本語教育】

米国では現在、約18.5%の学生が外国語を履修しているとされる。グローバル化に歯止めがきかない今、18%という数字はあまりにも少ないと米国政府も危惧している。外国語教育とは、その国の言葉だけではなく、文化や歴史、宗教や価値観などについても学ぶ機会であるからだ。その外国語教育では、現在中国語プログラムの躍進がささやかれると共に、日本語教育の存続における、危機的状況が指摘されている。昨今、日本語教師の仕事は、教室内で生徒と向き合うだけではすまされなくなった。学校に地域の住民を招待する日本祭りを開催したり、日本語の面白さを伝えるCMを作ったり、ときには市長や議員宛に支援を訴える手紙を出さなければ、日本語プログラムの存続が危ぶまれる時代なのである。

その一方で、昨年2011年には、全米外国語教師の中から選ばれる、ACTFL全米外国語教師賞という名誉ある賞を、カリフォルニア州のノース・サリナス高校で日本語を教える安座間（あざま）喜治先生が受賞した。日本語教師初の快挙で、外国語教育における日本語プログラムのレベルの高さを示し、存在感の急上昇にもつながった。

ダンカン合衆国教育長官と右：安座間先生

日本語教育の将来は、日本語教師のみならず、教育界からの声に耳を傾け、危機感をもち、一歩を踏み出すことができるすべての人の手にかかっている。新年を目前に控え、新たな挑戦について再認識させられた3日間であった。

ワシントンDC日米協会　教育プログラムディレクター
神尾りさ

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

ワシントン新春祭り　2013

Japanese New Year Celebration in Washington 2013

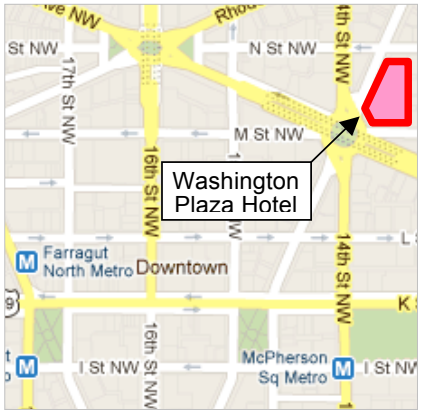
ワシントン日本商工会 / Japan Commerce Association of Washington, DC

いよいよワシントン新春祭りが近づいて参りました。お正月料理、パフォーマンスやゲーム、伝統的なお正月遊び、駄菓子など、盛りだくさんの内容でお待ちしています！

日時：　2013年1月27日（日）午前11時～午後3時

場所：　ワシントン プラザ ホテル

10 Thomas Circle, NW, Washington, DC
最寄駅: McPherson Square -Orange or Blue Lines
Farragut North -Red Line



ホテル駐車場はスペースに限りがありますので、公共交通かカープールの利用をお勧め致します。なお、祭り参加者には駐車料金の割引がありますので、祭り受付にて駐車券に貼るシールをお受け取り下さい（通常14ドルが10ﾄﾞﾙ　バレーパーキングは別料金）。

入場料　前売：$6　当日：$10　12歳以下は無料

前売り券の販売方法は後日商工会のサイト www.jcaw.org にてご案内いたします。

当日の受付混雑回避のためにも、前売りをご利用下さい。会場内が混雑した場合には入場をお待ちいただくことがあり得ますのでご了承ください。

会場内での食べ物、飲み物、おもちゃ、駄菓子などの販売は現金のみとなります。

～☆　プログラム予定　☆～

11:00　開場

お正月料理、パフォーマンスやゲーム、伝統的なお正月遊び、駄菓子など、盛りだくさんの内容でお待ちしています！
プログラムの内容は鋭意検討中です。ご期待ください。

15:00　閉会

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

ワシントン新春祭り　2013

Japanese New Year Celebration in Washington 2013

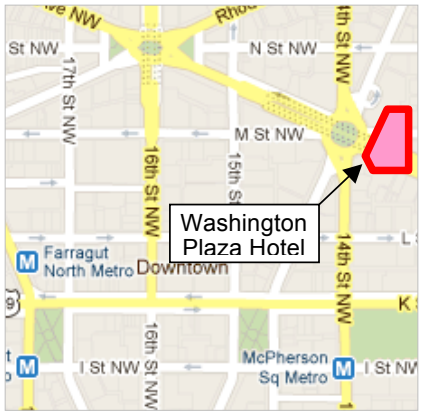
ワシントン日本商工会 / Japan Commerce Association of Washington, DC

We are very excited to announce the Japanese New Year's Festival is coming. Please join us to celebrate traditional Japanese New Year with traditional Japanese performance, games, food and a lot more!

Date：Sun, Jan 27, 2013　11:00AM to 3:00PM

Place：Washington Plaza Hotel

10 Thomas Circle, NW, Washington, DC
Closest Metro: McPherson Square – Orange/Blue Lines
Farragut North – Red line



Hotel parking is available at a discounted rate ($10 *no discount for valet parking). Please have your parking ticket validated at JCAW's desk. However, we do recommend taking public transportation or carpooling.

Tickets　Advance purchase：$6
Regular price at gate：$10
Children 12 and under are free.

Information on advance tickets purchase will be announced on JCAW Website www.jcaw.org later.

We strongly recommend buying advance tickets to speed up the admission process. We would like to ask your cooperation in advance as we may oblige to limit the number of people into the hall.

Foods, drinks and toys in the hall are sold by cash only.

～☆ Program ☆～

11:00　Gate open

Traditional Japanese performance, games, food and a lot more will wait for you. Details of the program will be announced later.

15:00　Closing

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

「DCじゃ～なるー第11回」

袴田 奈緒子

【共和党、暗中模索の時代へ～主流派と保守派の対立が足かせに】

ロムニー氏が共和党の候補に決まって以来、大接戦が予想されてきた今回の大統領選だが、ふたを開けてみると、選挙人ベースではオバマ大統領の大勝（332対206）という結果に。投票日の日付けが変わらない時間帯にあっけなく決着した。大量のCMでロムニー候補を「冷徹なファンド経営者」「庶民の心が分からない大富豪」と描いたPR戦略や自陣営の支持層を確実に一票につなげた組織力などがオバマ陣営の勝因となったが、ここでは共和党の敗因について考えてみたい。

両候補の得票分布	オバマ	ロムニー
◎人種		
白人	39%	59%
黒人	93%	6%
ヒスパニック	71%	27%
◎性別		
男性	45%	52%
女性	55%	44%
◎年齢		
18－29	60%	37%
30－44	52%	45%
45－64	47%	51%
65以上	44%	56%

（注）出口調査による

【人口構成の変化が致命傷に】

9月号のコラムで、ヒスパニックの増加を背景にした「人口地核変動」により、共和党が長期衰退期に入る可能性を指摘したが、今回の選挙の出口調査はまさにそのシナリオが始まりつつあることを示している。1992年には有権者全体のわずか2%だったヒスパニックは今回10%にまで上昇。コロラドやフロリダ、バージニアなどヒスパニック人口が増加している激戦州では、ヒスパニックの支持で優位にたったことがオバマ陣営の勝利につながった。

◎ヒスパニックの投票傾向		
	オバマ	ロムニー
フロリダ州	58%	40%
バージニア州	66%	31%
コロラド州	87%	10%
ネバダ州	80%	17%

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

一方、92年に全体の87%を占めた白人票は今回、72%にとどまった。今後も低下の一途をたどり、2016年には68%に、2020年代には50%以下にまで下がるとみられている。共和党は「白人」「中高年」「男性」からは手堅い支持を得たものの、支持層が今後減少していく層に偏っているという結果に党内には強烈な危機感が走った。

ヒスパニック票はもともと民主党に傾きがちではあるが、ロムニー氏への支持が特に低迷した背景には、同氏が予備選の時期にとった「右旋回」がある。「マサチューセッツ州のリベラル」と揶揄され「真の保守なのか」と共和党内で疑われ続けていたロムニー氏。予備選で保守派の支持を得るため、かなり右寄りの立場をとる必要に迫られたわけだが、特に致命傷になったのが「不法にアメリカに滞在する者は自ら国外に出る選択（self-deportation）」をするべきだ」という発言だ。一般的に、ヒスパニックはアメリカに滞在し続ける権利や永住権、就労資格を希望する。ロムニー氏の主張はこれらの権利を得るチャンスがなくなることを意味した。本選挙が近づくにつれ、少しずつトーンを弱めたロムニー氏だが、一度離反したヒスパニックが戻ることはなく、ヒスパニック票で目標としていた38%を大きく下回る27%の票しか獲得できなかった。

【白人の党から「開かれた」党に？】

投票日の夜、オバマ大統領の優勢が次々に伝わってくるにつれ、ハッカビー元アーカンソー州知事やFOXキャスターのビル・オライリー氏など保守派の論客は有権者の人口構成が劇的に変わっていることを指摘したうえで「共和党はもっと少数派を取り込まなければ勝てない。ロムニー陣営は有色人種への働きかけが全くできなかった」と嘆いた。選挙直後に開いた共和党知事連合の会合でも、新しく議長に就いたボビー・ジンダル・ルイジアナ州知事（インド系）が「共和党は（偏った層ではなく）すべての有権者の票を追い求めていかなくてはいけない」とはっぱをかけた。

なかでも最重要とされるヒスパニックを狙った動きが目につく。選挙直後、「共和党の課題はいかにして非白人の支持を取り込むかだ」と述べたベイナー下院議長は、移民政策の見直しに取り組んでいくと表明。11月下旬には、近く引退する共和党の大物議員2人が、一定の条件下で不法移民の若者がアメリカに滞在し続けられるようにする法案を提出した。ロムニー陣営でヒスパニック層の開拓を担当していたグティエレス元商務長官らは、移民制度の改革を実現するため、「Republicans for Immigration Reform」というスーパーPAC（政治団体）を設立する方向だ。

これらはすべて「保守的になりすぎたゆえにマイノリティー票を獲得できなかったことが敗因」との分析にもとづき、共和党の立ち位置をやや中道に修正しようという動きだ。中道寄りの候補との予備選を競り勝った保守強硬派の候補が上院選などで民主党候補に負けるケースが続出したこともこうした流れを加速させた。今後は党指導部が各州の予備選にも積極的に関わり、民主党に勝てる候補の擁立に力を入れていくという。

【保守派の逆襲～「一段の保守化こそ復活のカギ」】

しかし、選挙から3週間ほどたった今、目立ってきたのは保守派の「逆襲」だ。「2008年のマケイン氏に続き『中道派』を大統領候補に選んだことが敗因なのに、これ以上保守色を薄めろというのか」という反発だ。保守強硬派の目に、今回の選挙は「保守の思想が負けたのではなく、（十分に

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

保守でなかった）候補者本人の問題」と映る。それゆえに、ティーパーティー系の活動家などは「保守の主張を極めることが復活への道」と主張、「寛容すぎる」移民政策にも消極的な姿勢をみせる。2014年に改選を迎える中道派の上院議員などを攻撃し、予備選で「真性保守」の候補を支援することで一段の「純化」をはかる構えだ。

今回の大統領選の予備選においても、共和党内の「主流派」と「草の根保守」の対立がたびたび顕在化した結果、予備選は長期化。消耗戦を余儀なくされたロムニー候補が本選挙を戦ううえで、資金面でもイメージ面でも痛手となった。今後共和党が長期低迷するのか、復活を遂げるのか―。次世代のリーダーに前述のジンダル知事のほか、ヒスパニックのルビオ上院議員、マルティネス・ニューメキシコ州知事など非白人の大物が連なるなど希望の芽はあるだけに、内部対立をどう克服するかが重要なカギとなるだろう。

（終）

• • • • • • • • • • • • • • •

袴田奈緒子プロフィール
米ジョージワシントン大学国際関係学修士課程修了。その後日本に帰国し、約10年間、新聞記者として勤める。夫の海外赴任を機に退社し、2011年5月よりワシントンDC郊外に在住。

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

新連載「グルマン会、ワシントンの食を語る」シリーズ
第一回「元祖麻婆豆腐はワシントンにあり」

9月のある夜、Dupont Circleにほどちかい一軒のレストラン（写真1）に、ひとり、またひとりと東洋系の容貌をした男女が吸い込まれてゆく。ある者は小走りに、ある者はあたりを睥睨しながら。どの面々も、店に入るまで互いに目を合わせることはなく、席に着いた後も各人はメニューの点検に余念がない。ほどなく、店主がうやうやしく挨拶にやってくる。片膝をつき、手の甲に口づけする真似さえ交えつつ、一座の座長に「ドン・コルレオーネ」とおどけて呼びかける様からは、イタリアン・マフィアもかくやの趣き。これこそは、DCの美食マフィア、グルマン会の定例会合なのである。

写真1: 9月のグルマン会を行ったMourayo、落ち着いた雰囲気の中で、レベルの高いにギリシア料理を提供

卓に並んだ面々を紹介しよう。一座の最年長、枝田は映画と水泳を愛する銀髪の紳士。枝田の右には、日本の空のゲートキーパーこと成田。更に右には同じく航空業界所属、美食が過ぎて機内食メニューまで仕切るというYelpエリートメンバーの穴星と続く。卓を挟んで反対側には、国際金融マフィアの大河内、某経済紙の敏腕記者永吉。そして私は。いややめておこう。古来、語り部に名前は不要だ。人が歩くところに道ができ、話すところに物語が生まれるのだ。琵琶もて平家の盛衰を弾き語るあの法師に、名前なぞあったであろうか。

写真2: おすすめ料理の一つ、塩竈焼きの魚、塩加減が絶品。

少し遅れて、3名の美女が到着する。妙齢の女性ビジネスコンサルタント、大学病院の女医、フォギーボトムの女学生というこの上もない取り合わせだ。隣に着席した男性陣がそれぞれの女性のワイングラスを満たすと、3人はうっとりとワインを見つめる。さざなみのような会話が徐々に収まり、完全な沈黙となったところで、彼女達は目を覚ます。長いまつげがはじける音とともに目を、口を開き、こう開会を宣言するのである。「今日もおいしくなりそうね」

写真3: こちらもおすすめの骨付きのラム肉のグリル

読者諸氏におかれては、どうぞ誤解なきよう。この集団、いわゆる蘊蓄を垂れて喜ぶ軟弱な“グルメ”ではない。ここは“グルマン”の集い。主菜級の前菜を胃袋に押し込んでなお、塩竈焼きの魚（写真2）、骨付きのラム肉（写真3）、香り高い豚肉の詰め物。これらを、大量のワインとともに次々に胃袋に流し込み、更に時には麺で締めるのがここでの流儀である。しかし、うまいもの以外は、飲まない、食さない。

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

また、賢明なる読者諸氏には、このDCのどこにうまいものなど存在するのか、といぶかしく思われる向きもあろう。そのお気持ちは察するに余りある。Zagat、Michelin、Yelp、友人の口コミ、どれも物足りない歯痒さを感じておられよう。翻って我がグルマン会は、あらゆる守備範囲と攻撃能力を兼ね備えた集団である。それぞれに、強い持ち味と決意がある。それなくして何故、百戦錬磨、海千山千の読者諸氏の前でこのような駄文をお目にかけることができよう。いずれにせよ前口上はこの辺で。乾杯前のスピーチは短いほど良い。

写真4: Great Wall Szechuan House、14thStreet沿いに覆いが目立つ。

グルマン会初稿に何をご紹介するかは、会員の間でも諸説紛糾ではあったが、大事なのは読者にとっての実用性、そして、我々が食事の何に価値を見出すかを明確にお伝えすることと思い至った。そこでまずはワシントン中華事情を取り上げたい。一般論ではない。我々の頭に、会話に、胃袋に、浮かんでは消えた幾多のメニューのうち、一品に絞ってお届けしたい。その一品とは、麻婆豆腐である。

写真5: Great Wall の麻婆豆腐の特徴は、麻味が効いていること。花椒そのものは振りかかっていないが、花椒油が使われている。

中華の王道・麻婆豆腐。なかなかどうして奥深い。この料理、元をたどれば、四川省成都の陳氏の家で、ありあわせの材料で来客に供されたのが起源であると言う。ひき肉、赤唐辛子、豆板醤、にんにく、豆豉を炒め、鶏ガラスープと醤油で豆腐を煮、最後は化粧油を加え強火で底を焼き付け葉ニンニクを入れ、最後に花椒粉を振る。唐辛子の辛さ「辣味」(ラーウェイ)と花椒(ホワジャオ)の痺れる辛さ「麻味」(マーウェイ)を併せ持つことが特色である。ちなみに我が国には、「料理の鉄人」陳建一の父親・陳建民がもたらしたとされる。この鉄人陳氏と成都陳氏は別系統であり、成都の方も某商社との提携により近年日本にも進出した由である。ちなみに成都の方は、「陳麻婆豆腐」と名前に必ず「陳」が入る。

写真6: GWのおすすめ料理、白身魚を小麦粉と卵白で覆って、からし菜や青唐辛子で煮た料理

筆者も、東京在勤時代に、赤坂の重慶府(既に閉店)、新橋の鴻運、青山のEssenceなど、いわゆる麻婆豆腐の名店を食べ比べた経験があるが、鴻運はどちらかと言えば辛さよりもまろみが特徴。Essenceは真っ赤な見た目ほどには辛くない、と思ったのも束の間やはり辛い。そしてEssenceが唐辛子の辛さ「辣味」であったのに対し、重慶府は花椒(ホワジャオ)の辛さ「麻味」。やはり東京の中華では重慶府こそが本場四川と膝を打ったものであった(但し本場中国では、重慶料理は辣味、成都料理は麻味が基本である)。

ところが、である。DCには東京の重慶府を超える名店が存在する。14th Streetを北上したところにあるGreat Wall Szechuan House(写真4)がそれである。「辣味」と「麻味」のバランスも絶妙。

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

豆腐自体にも、事前に湯を通して固さの塩梅が整えてある（写真5、6）。特に、同じく重慶を名乗るK StreetのSichuan Pavilion 重慶楼と比べるとGreat Wall Szechuan Houseの花椒使いは見事である。やはり陳麻婆豆腐発祥の地、成都の系譜を引くGreat Wall Szechuan Houseがより本場に近いといったところであろうか。

ところが、である。再度の物言いで恐縮であるが、実は、本当の名店はダレス空港の近く、Chantillyにあった。店の名前はSichuan Village 川菜香（川菜＝四川料理）。何の変哲もない店構え（写真7）であるが、中国人が団体でバスを仕立ててやって来ると聞けば、皆さんの食指も動き始めるのではなかろうか。メニューを仔細に検討すればここの麻婆豆腐には「陳」の文字。何はともあれここの麻婆豆腐を口にしていただきたい。「辣味」と「麻味」のバランスは言わずもがな。Great Wall Szechuan Houseの麻婆豆腐が、辣（ラー）であれ麻（マー）であれ要するに辛みが中心であったのに比べ、ここの麻婆豆腐にはコクがある。日本風に言えばだしが効いているのである（写真8、9）。

写真7: Sichuan Village、モールにある普通の中華レストランという店構え

写真8: 陳麻婆豆腐は花椒粉（花椒を挽いたもの）、を使用している。麻味と辣味のなかにまろやかさがあるのが特徴。

グルマン会のグルマン会たる所以を一つご披露しよう。実はこの店こそ成都の陳麻婆豆腐の正統な継承であることを我々は知っている。文革を逃れるべく店主が秘伝のレシピを持って当地に亡命した旨、3年前、穴星があることがきっかけで店主から聞き出したのだ。成都の本店が、文革の嵐を切り抜けるために、材料を変え、伝統を捨てた振りもしていた間に、本物のレシピは海を渡ってダレスにまでたどり着いていたと言えば、ピリリと辛い、どころか、波瀾万丈、激辛な物語なのである。

写真9: SVのおすすめ料理、牛肉とモツの四川煮込み冷菜。

以上、グルマン会による記念すべき第一回寄稿は、“本場四川の麻婆豆腐はワシントンにあり”をお送りした。最後に、「麻婆豆腐はさておきDCで中華料理を食するならば何処に行けばいいのか」との声にも最後にさらっとお答えしておくこととしたい。

1. 前述のSichuan Pavilionは最も無難。親日家オーナーのJimが色々カスタマイズされた料理を供してくれる。時に混み過ぎるのが玉に傷。
2. Rockvilleでのお勧め四川は、Sichuan Jin River, Joe’s NoodleHouse。
3. NY並とは行かないが、週末の飲茶はRosslynのChina Garden。
4. 中華ラーメン、粥の類いなら、ChinatownのFull Kee（富記）、Falls ChurchのX.O. Taste、WheatonのFull Key。
5. RockvilleにあるA&J Restaurantは出色。餃子、麺（特に酸辣冷麺）、排骨飯などが美味。コストパフォーマンスが並ではない。

以上

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

ワシントン月報（第90回）
「日本の大きさは世界6位」

米国弁護士　服部 健一

前回、日本の経済や技術は世界の最高水準というような記事を書いた。今回の記事は若干それを補足するだけに過ぎない簡単なものだが、是非日本の人々に認識してほしい事実である。

それは日本の領域は世界で6番目に大きい国であるという事実である。と、言うとほとんどの人は「そんな馬鹿な！日本は小さな島国じゃないか！」と反応するだろう。確かに陸地面積の大きい順で行けば、1位ロシア、2位カナダ、3位中国、4位アメリカ、5位ブラジル、6位オーストラリア、7位インド、8位アルゼンチン、9位カザフスタン、10位アルジェリアとなり、そして62位日本、63位はドイツとなる。

つまり、日本は世界232カ国の62番目にしか過ぎない。それでもトップ30%にははいっており、極小ではない。そもそも日本はイギリス（80位）やドイツより大きい。ちなみに世界最小を争っている国は、231位モナコ、232位バチカン市国である。しかし、最小でも知名度や影響力は世界最小でない事は誰しもが認めるであろう。

では何故日本が世界で第6位の大きな国になるのか。それは海だ。
尖閣諸島は1968年に海底資源が発見された直後の1971年から中国と台湾が問題にし始めたが、海底資源は1つの問題でしかない。それより島を所有する事は海域を領有する事に大きな意義がある。日本は尖閣諸島のみならず南方に与那国島、沖大東島、沖ノ鳥島、硫黄島、南鳥島等の実に多くの島々を所有している。

それらの全島に基づく日本の排他的経済水域（Exclusive Economic Zone: EEZ）は図1に示されるように巨大となり、EEZと領海を合わせると1位アメリカ、2位フランス、3位オーストラリア、4位ロシア、5位カナダ、6位日本となり日本は世界第6位の大きさなのである。中国はこの点では15位でしかない。だからこそ中国は南シナ海や尖閣諸島の海域を必死にほしがるのだ。

人によっては、「日本は台湾の隣の尖閣諸島や与那国島まで手を出して、日本に問題がある

図1

出所：海上保安庁海洋情報部HP

表1

国土面積	約38万km^2
領海（含：内水）	約43万km^2
接続水域	約32万km^2
領海（含：内水）＋接続水域	約74万km^2
排他的経済水域	約405万km^2
領海（含：内水）＋排他的経済水域	約447万km^2

出所：海上保安庁海洋情報部HP

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

のではないか…？」と思う人もいるだろう。しかし、地図を良く見ると沖大東島や沖ノ鳥島も日本の領島であるので決して尖閣諸島のみに長い手を伸ばしているわけではない（但し、沖ノ鳥島周辺の大陸棚は中国と韓国が島と認めておらず争っているので、国連大陸棚限界委員会も日本の大陸棚とはまだ決めていない）。このように日本全体で見る事が重要なのである。

次に、「何だ、海域ではないか。人は住めない。海底資源は重要にしても水の世界じゃ意味はない」と反発するかもしれない。それは歴史を見ていない人である。

古代社会は陸地を制する者が世界を制した（たとえばチンギスハンやローマ帝国）。中世では陸と海を制する者が世界を制した（たとえばイギリスとスペイン）。近代では陸と海と空を制する者が世界を制した（たとえばアメリカ）。そしてこれからは陸と海と空の中でも本当の意味で海を制する者が世界を制するとも考えられる（宇宙は多分もっと先の話だろう）。

海の食物資源や海底資源はとにかく重要だが、海を技術によって生活環境に耐え得る空間にする事は可能で、関空はその例の一つでもある。数10年後の技術では海上、海中を含めてはるかに巨大な施設も可能になるかもしれない。だからこそ中国は尖閣諸島や南シナ海で食指を伸ばす事に必死なのだ。

南シナ海をめぐる中国とベトナム、マレーシア等の海域の争いは図2で示されるように基本的には中東に匹敵する埋蔵量があると言われる海底油田の獲得争いである。ここで負ける事はその大海底油田を失う事になる。それにしても中国の南シナ海の領海主張は他人の家の玄関まで自分のものと主張するのと全く同じである。ともあれ、中国はもし尖閣諸島で日本に負ける事があれば、その影響は当然南シナ海にも及ぶと考えているのは当然だろう。

図2

出所：AFPBB News

つまり、中国にとっては尖閣諸島問題や南シナ海問題も同等で、躍起になる。日本も肝をすえて戦わなければならない。しかし、中国にとって当面の最大の問題は石油資源よりも内乱やクーデターである。今のところ国が抑えているが、貧富の差はあまりに著しく、いつどこでも内乱やクーデターが生じてもおかしくない社会情勢にある。それを防ぐためには日本等との外国との争いを持ち出し、人民に「敵は外国だ！」という本能寺論を持ち出すのが一番良い。

したがって、日本が尖閣諸島の領有を主張する事は大事ではあるが、攻撃的に出れば出るほど中国の思うツボになる可能性はある。

だからこそアメリカも日本に対して「あまりいきり立つな。立てば立つほど中国の思うツボになる」と冷静沈着を求める事になる。このバランスは非常に難しい問題である。日本の次の政権はこれをどのように対処して行くのだろうか。（続く）

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

ワシントンの映画好きによるリレー連載：第15回
「ワシントンで気ままに映画を語ろう『マジック編』」

マジックボーイ

突然ですが、皆さん、だまされるのお好きですか？

こう尋ねますと、ほとんどの方が顔をしかめます。だって、子供のときからウソツキは泥棒の始まりって親に教わったし、オレオレだか振り込めだか、警察の方々に毎日「だまされないように」って、ねぇ。

けれど僕はここで言うのです「人はだまされることを好む。ただし、素敵に」と。

映画のラストできれいにだまされた時の「やられた！」って感じは、すぅっとジェットコースターで落下した時の快感。それは僕が幼稚園の頃、初めて見たマジックの感動と同じものでした。そういう映画、ありますよね。典型的なテレビっ子であった私にとっては、映画館は少し大人の場所でしたが、その時から、だまされる快感、月並みな言葉で言うとどんでん返しの面白さ、に取り付かれ、映画館に通うようになったのです。僕が人を、堂々と「だます」ことができるマジシャンになったのも、だまされる喜びを皆さんと分かち合いたいからだと思っています。

今月号のキーワードは「共感」。そんな僕がマジシャンとしてスクリーンの中の主人公たちに共感し、僕の生き方にも影響を与えた映画たちを気ままに語ってみましょう。

まずは、誰もがご存知の「スティング（The Sting, 1973）」から。ジョージ・ロイ・ヒル監督。アカデミー賞を7部門受賞した本作はまさに題名からスティング（だます・ぼったくるという動詞）です。1930年代のシカゴを舞台に、詐欺師（コン・マン）達が、仲間を殺された仕返しに、ギャングのボスを大掛かり、かつ周到な仕掛けの詐欺（コン・ゲーム）でだますストーリー。最初のシーンから繰り出される華麗なコン・ゲームのテクニック、ロバート・レッドフォード演じるジョニー・フッカーのチンピラぶりと、「若気のいたり」感、そして彼の師匠として登場するヘンリー・ゴンドーフ（ポール・ニューマン）のかっこよさ。ボスのドイル・ロネガン（ロバート・ショウ）だけでなく、観ている僕たちも最後までだまされるように仕組まれたプロット。名曲「エンターテイナー」が流れる中、主人公たちがアイリス・アウト（くりぬかれた円が小さくなって消えて行くっていう映画技法）するエンディング・・・まぁ、エンターテインメントの全てが詰め込まれた作品でしょう。小学生の時に初めて見た時の衝撃が忘れられず、その時から、無数のクライムムービーを見てきましたが、未だにあの頃を超える感動を味わわせてくれる作品はありません。

ラス・ベガスでは今宵も「合法的に」巨額のお金が巻き上げられているのです。（2012年9月）

ちなみに、ヘンリーが途中披露するトランプのテクニックのシーン（有名なマジシャンであるジョン・カーニーのスタンド・インと言われている）や、ポーカー対決のシーンでトランプを一組丸ごとすりかえるイカサマ技法はその頃すでにマジシャンだった僕にはまさに「動く教科書」で、ビデオを何度も巻き戻してはコマ送りしたのを覚えています。

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

僕がポール・ニューマンのファンになり、もう一人の「だまし」役の彼に出会ったのが、「ハスラー（The Hustler, 1961）」です。そこで彼はハスラー（ビリヤード賭博のプロ）としてカモから金を巻き上げています。ビリヤードの試合でハラハラさせる見せ方もさることながら、自殺してしまった恋人への思いを強烈な演技でぶつけている彼の姿が印象的でした。そして僕が中学生の時に「ハスラー2（The Color of Money, 1986）」が封切られたのです。ポール・ニューマンがトム・クルーズと賭けビリヤードをするというふれ込みですから、わくわくしないわけにはいきません。ロードショウを心待ちにして出かけた映画館では、お得意の、ギリギリまで負けたと見せかけて、最後に一発逆転、掛け金をせしめるというどんでん返しのテクニックが使われていて大満足。2人のビリヤード姿、華麗なキューさばきや、トリックショットのシーンにしびれたのもさることながら、その頃既に引退を決意していたハスラー（ポール）が、次世代の若手（トム）にゲームでしてやられるものの．．．というラストは、往年のスターたちから若手へ、さらにSFX全盛への転換期を迎えていたハリウッド映画そのものを象徴したメタ構造を彷彿とさせ、少し複雑な気分になりました。ポール・ニューマンはこの役で（僕の）念願のアカデミー主演男優賞を獲得します。バブル経済の日本ではその後急速にプール・バー（ビリヤード台を併設したバー）が大流行したのでした。

同じ年に「コン・ゲーム」を主題として取り扱った薬師丸ひろ子主演の「紳士同盟（1986）」なんてのもありましたが、日本の詐欺師たちはなんとなくスマートさに欠けていて、僕はすぐに洋画に戻ってきました。ただし私が生まれて初めて買ったレコードが本作のサントラだった、などということも思い出しました。

アメリカ映画に話を戻します。僕がだましたりだまされたりの世界に完全に浸っていた頃、見た作品「ペーパームーン（Paper Moon, 1973）」は、大恐慌時代のアメリカで、聖書を高く売りつける詐欺師の男と、母親を亡くした女の子が絆を深めて行く「家族ゲーム」モノですが、そこでもいたるところにコン・ゲームが出てきます。いわゆる落語の「時そば」のような寸借サギを、テータム・オニール演じる女の子が大人顔負けにやってのけるのでした。酒の密売など、詐欺、というより犯罪の規模がだんだん大きくなって行くというスリリングな展開と、史上最も若い10歳でオスカー女優となったテータムの利発さが大のお気に入りです。以前ダウンタウンの松本人志さんが最も好きな映画として本作を挙げており、さすがだなぁと思った覚えがあります（ペーパームーンは茶草絵里さんも2012年10月号で取り上げていらっしゃいます）。

さて現在、無数のプロマジシャンが世界中にいますが、今でもアメリカ人に史上最も有名なマジシャンは誰かと聞きますと、「ハリー・フーディニー（Harry Houdini, 1874-1926）」の名が挙がります。彼は「脱出王」「奇術王」など数々の異名があって、ニューヨークのThe Jewish Museumでも昨年特別展がありましたし、ここの近くではスミソニアンのNational Portrait Galleryにも写真がありますので、ご存知の方もいらっしゃるでしょう。

彼の人生そのものも波乱万丈で、いくつも映画に取り上げられています。例えば「魔術の恋（Houdini, 1953）」。一流を目指して下積み修行中のフーディーニ青年（トニー・カーティス）と、そんな彼に一目惚れして結婚するベス（ジャネット・リー）、夫婦で地方巡業しながら徐々に天賦の才能と努力により金庫破り大会で優勝、ロンドンの有名なスコットランドヤードの刑務所破りなどで名声を得て、アメリカに帰国。念願であった究極のマジック、「逆さ吊りに沈められた水槽からの脱出」に挑戦するのだが・・・というストーリー。ラスト以外は比較的伝記に忠実に作られています。「芸人にとって、舞台で死ぬのが本望、なんて」うそぶく噺家も昔はいましたが、あまりにもマジシャンとし

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

てむごい結末だなと初めて見た時は思いました。ところが、伝記を読みますと、実際のフーディーニさんはもっとあっけない最期だったことがわかります。不死身を売りにしていた彼は、ある日楽屋に青年に思い切り腹を殴らせ、その結果、破裂性の腹膜炎で亡くなったそうです。

超能力者とマジシャンはホントは仲良しなのです。（ユリ・ゲラーさんと。2012年10月）

彼は一時、亡くなった母親の霊を呼び出すために当時はやっていた交霊術にはまったのですが、どれも幼稚なトリックであることを知り、その後一転交霊術否定派として、世間で活躍することになります。

それを踏まえて作られた映画が「フェアリーテイル（Fairy Tale: A True Story, 1997）」。1917年にイギリスで実際に起きたコティングリー妖精事件という心霊写真騒動が元になっています。当時のイギリスは第一次世界大戦下。ある少女が疎開先のヨークシャーで従姉妹と遊んでいるある日、一緒に小川で美しく光る妖精に遭遇して、その写真が家族に見つかり、周りの人たちを巻き込んで大事件になって行く展開。写真の真贋を確かめるべく現地にやってくるフーディーニ（ハーヴェイ・カイテル）だけでなく、シャーロック・ホームズの生みの親、著者であるサー・アー　サー・コナン・ドイル（ピーター・オトゥール）、や、そしてフィルム会社のコダック社なども絡んでくるという筋書きですが、決してドキュメンタリータッチではなく、ヨークシャーの美しい景色の中で妖精の存在を信じる人、信じない人、信じたい人等々．．．の心の動きをきめ細かく描写しており、とてもファンタジックな作品に、超能力懐疑派だった僕もその時代には何があってもよかったのではないかな～、とおおらかな気持ちになれた作品でした。

ここで一言申し上げますと、実はマジックと映画は相性が悪いと考えているのです。言い換えると「スクリーンの中でのマジックの演技は観客をがっかりさせる」。映画を見に来る観客は、スクリーンの中でどんなにスゴイマジックを見せても、何でもできるじゃない。と醒めてしまうのです。

考えているマジシャン、ではなくウサギ（Barry Flanagan, 1997）

今までお話ししてきた映画も、決してマジックやコン・ゲームが前面に押し出されているから面白いわけではなく、人々の心の動きや、それを取り巻く環境、事件によって動かされた人々の心の変化を中心に描いているからこそ印象深いのです。例えば、僕の名前でもある「マジックボーイ（The Escape Artist, 1982）」、お父さんはフーディーニを彷彿とさせる脱出王で、主人公のトランプマジックや金属の定規を使ってダイヤル式金庫の解錠を試みるシーンもあるものの、基本はサスペンスで、それだからこそ結末のカタルシスが生きてくるのです。

一方で、スタローン主演の「シェイド（Shade, 2003）」は全編、マジシャントリビュートのような、典型的「ラスベガスイカサマギャンブル物」で、内容はともかくとして、監

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

督のダミアン・ニーマンがエンディングロールで、自身が演じるトランプのイカサマテクニックを延々と見せてくれる。まさにトリック前面押し出し型映画でした。僕には充分参考になりましたが、一般の方にとってはまるでかくし芸大会を見に行った気になったことでしょう。

僕はそんなこともあって近年はマジックそのものを題材にした映画は敬遠していたのですが、数年前にイリュージョンをテーマにした2つの作品が立て続けに公開され、その違いがとても興味深かったのでご紹介します。

自然の驚異に触れたほうがよっぽど感動します。Luray caverns, (Luray, 2012年8月)

一つ目は「幻影師アイゼンハイム（Illusionist, 2006年, 日本公開2008年）」で19世紀ウィーンという設定、プラハで撮影された映像が素敵で、イリュージョニスト役のエドワード・ノートンも好きな俳優であるものの、全編を通じて、疑問の残る映画でした。まず、彼が舞台で演じているマジックが「CG」丸出しだったのです。種のある「マジック」なのか本ものの「魔法」なのかが見ているほうにはわかりづらくなってしまいます。イリュージョンの助手として舞台に上げた皇太子のフィアンセが実は昔の恋人だった・・・という偶然から発展するストーリーは悪くはありませんでしたが、その後期待以上のどんでん返しがなく、エンディングも思ったとおりの「夢落ち」でがっかり。映画の作りとしてもスティングで述べたアイリス・アウトの技法が雰囲気作りのためやたらに使われていたりと、僕好みではないけれど、気になる方は是非ご覧になってご自身の眼でお確かめ下さい（幻影師アイゼンハイムはぽっちみみさんが2012年1・2月合併号でおススメの一本として挙げていらっしゃいます）。

それと対照的に、主題として「人体移動術」というマジックを取り上げながらも見事な人間ドラマにとして仕上げたのが「プレステージ（The Prestige, 2006, 日本公開2007年）。監督はバットマン・ビギンズ、ダークナイトシリーズのクリストファー・ノーランで、19世紀のロンドンで若きライバルとして腕を競い合う2人のマジシャンを演じるのはヒュー・ジャックマンとクリスチャン・ベールです。僕が最初、原作「『奇術師』（The Prestige, 1995）」を読んだ時は「あ、これは映像化は無理だなぁ」と思っていたのですが、すばらしい脚本（決して改悪ではない解決策）、映像（適度にリアルであると同時に幻想的）、そして演技（マジシャンたちの実にホンモノっぽい動きに感動。マジック監修は大物デビッド・カパーフィールドとクレジットされているけれど、実際の指導は、僕もよく知っているリッキー・ジェイとマイケル・ウェーバーというプロマジシャンが行っていたことを聞いて、納得しました）で、マジシャンの舞台の裏側、次第に心理戦にまでもつれ込む2人のそこに潜んでいる人間としての感情が丹念に描写され、さらにマジックの本質とは何か？についてまで考察されており、僕がマジシャンとして人をだます代償として失うものは何か？まで考えされられた作品でした。もちろんラストのどんでん返しも秀逸で「ノーラン監督、マジックを題材にしてくれてありがとう」の一言。（そういえば超頭を使う映画だった「メメント（Memento, 2000）」も彼の作品でした）本作はマジックに興味がない方にも、是非お勧めします。僕も何度でも見直したい作品です。ストーリーの種明かしは僕のマジックと同じで、もちろんここではしないでおきますね。作中の語り手でもあるマジシャン、ジョン・カッター（マイケル・ケイン）もこう言ってましたし。

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

Now you're looking for the secret. But you won't find it because of course, you're not really looking. You don't really want to work it out. You want to be fooled.

ここで結論。映画そのものが観客を夢の世界に導くマジックなのだと思います。

そもそも、映画の仕組みって、1秒間に24コマの静止画像のフィルムを連続して見せられるだけで網膜の残像を映像として認識してしまうわけでしょう？これって完全に視覚が「だまされて」ますよね。僕ら人間の能力の不完全さに感謝しましょう。そして常に新しい感動をつむぎ出してくれる映画人の無限の叡智と努力にも。

皆さんも、週末のひと時を映画館に「素敵に」だまされに行きませんか？

ここまでお付き合いくださいましてありがとうございました。サンクスギビングも終わりましたので、次回のキーワードは“感謝”でお願いいたします。

（追記）ここでやっと気づいたのですが、さすがにこのコーナー、DC地区も登場させないといけないんですってね。というわけで一番最近見た映画について少し。

いつも映画に登場するCapitolの近くに住んでいるなんて夢のようです。

「アルゴ（Argo, 2012）」ベン・アフレック主演・監督。俳優としての彼は「そんな彼なら捨てちゃえば（He's Just Not That into You, 2009）」とか、僕の大好きな「ペイチェック 消された記憶（Paycheck, 2003）これもどんでん返し系）、など多数の出演作がありますが、15年前、当時無名だった幼なじみのマット・デイモンと一緒に「グッドウィル・ハンティング（The Goodwill Hunting, 1997）」でアカデミー脚本賞を受賞し、その後、製作側としても大きく注目されています。「the nextイーストウッド」てのはまだ言いすぎだと思うんですけれども。

イランの首都テヘランで1979年に起きた米大使館人質事件に際し、カナダ大使館にかろうじて逃げ込んだ数名のメンバーを、CIAのエージェントであるアフレックが、架空の映画のスタッフたちに仕立て上げて米国に脱出させるという奇抜な作戦をたて、実行して行く、という実際にあったお話に基づいた作品です。 この中で観客の僕らが「だまされる」ことは終始ありませんが、いかに相手（この場合はイラン革命軍兵士たち）を「だますか」「バレるか」を最後までハラハラしながら堪能させてくれる正統派のサスペンスでした。「人質救出」という命にかかわる作戦に、「われらが映画」を利用するという構造そのものが、「映画の底力」をわれわれに見せ付けてくれるようになっています。久しぶりの映画館を満足感に浸りながら後にしたのですが、この懐かしい感じはいったい何なんだろう？という疑問が今回解けました。一つは事件が起こった70年代の映画、僕が初めて出会った「スティング」のような映像感を再現して見せているところ。うーん、巧い。もちろん監督ベン・アフレックの意図したところでしょう。そしてもう一つはなんと、国内でのロケはCIA所在地のラングレーも含め、僕の住んでいるバージニア州Mcleanで行われていたのでした。そっか、なーるほど。と種明かしの快感。そういえば近くの洗濯屋さん、マクリーン・クリーナーズまで映っていたなぁ。まさに時間的、空間的のダブルの既視感を味わえる至高の映画体験となったのでした。

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

映画『ザ・セッションズ』(The Sessions)
(米 2012年)

米国弁護士　長野 さわか

今年は出張が相次ぎ、すっかりご無沙汰してしまったが、今月はオスカーの有力候補と思われる映画をご紹介したい。

カリフォルニア州バークレー在住のジャーナリストで詩人のマーク・オブライエン氏の実話に基づいて作られた作品。6歳でポリオ(小児麻痺)を患い、それ以降人工呼吸器で生き延びてきた38歳の男性マーク(ジョン・ホークス)が、童貞からついに「男」になる過程を描いている。身体障害者の性にかかわる深刻な問題にもかかわらず、センシティブな題材を上手くコメディ・タッチに仕上げている。

マークは脊髄が歪曲し、性行為を行うことは不可能と言われていたが、人間らしく、男性として、生きたい一心でセラピスト(ヘレン・ハント)や神父(ウイリアム・H・メイシー)の助けを得て、童貞からの脱却にチャレンジする。何しろ、介護士に入浴してもらう以外、人に触れられたこともないマーク。映画ではぎこちないベッド・シーンから始まり、セッションを重ねるごとにマークとセラピストの距離が縮まっていく様子がやさしいタッチで描かれている。

ジョン・ホークスが、ボディダブルや、CGなど一切使わずに、不自然な体位で身障者マーク・オブライエンに近づいた演技は見事。重度の障害者であることを忘れさせるぐらいのユーモアと晩年を輝かせた男として、また人間としての自信を熱演している。セラピストのヘレン・ハントも文字通り「体当たり」でベッド・シーンを演じ、確実にオスカー候補として大きな一歩を踏み出した。

【売春ではないのか】

性行為の代行者セラピストは、金銭の受け渡しがあるという点でボランティアではないけれど売春ではない。あくまでも、身障者が人間として単なる欲求以上の経験をしたいという切実な要望をかなえる「手伝い」をするという意味で、セッションの回数は上限6回までと決まっている。このようなセラピストは博愛精神がなければ出来ないし、かといってあまり感情移入すると、それも危険なことになりかねない。敬虔なカトリックのマークは神父との会話の中で売春婦と性行為の代行者の違いについて議論するシーンがあるが、同作品を観ていただければ、その違いがおわかりいただけると思う。

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

今月の書評
「ヴィクトリー・ラボ」
サシャ・アイセンバーグ

ポトマック・アソシエーツ　池原 麻里子

「ヴィクトリー・ラボ」
サシャ・アイセンバーグ

アメリカの総選挙日11月6日まで後、数週間。テレビ、インターネットといったあらゆるメディア、街中に溢れる選挙広告から逃れることはできない。唯一、ありがたいのは日本のように、候補の選挙遊説車による騒音がないことだ。

過去半世紀の選挙テクニックを分析したのが本書で、著者アイセンバーグはオンライン雑誌「スレート」のコラムニストで、2008年大統領選を報道した。

さて、ジャーナリストは候補の遊説やテレビ広告、スポークスマンの発言について報道し、イメージ作りや候補の訴えが支持者争奪戦の全てであるかのような報道をしがちだ。しかし、二極化が進み、浮動票が7%の現状下では、各選挙陣営は統計モデルを駆使し、支持者をしっかり効率よく見つけ、動員することに重点が置かれている。2008年大統領選で、オバマ選対の責任者デイヴィッド・プラフは新旧両方の選挙テクニックの効果を判断するために、徹底的にデータを分析した。その手法は大成功を収め、各有権者の志向を予想するマイクロターゲティング等は今年も活用されている。

マイクロターゲティングとよく言われるが、特定の有権者の好む乗用車や飲料がわかっても意味はない。数百、数千のデータを組み合わせることによって、その有権者の政治志向や行動パターンを予想できるのだ。以前のように、地方在住のヒスパニック系男性には民主党支持者が多いといった人種に基づく情報ではなく、選挙陣営はより複雑なデータに基づき、類似した行動パターンをとる有権者をターゲットする。

オバマ陣営ではフォーカス・グループの結果に基づき、世論調査に「あなたの隣人たちは黒人の大統領候補に投票するだろうか」という質問を入れた。「ノー」と答えた有権者は、実は自身の人種差別を代弁していることがわかったからだ。そして、黒人候補を支持せず、投票する可能性が中間値の有権者に対する接触は避けた。接触することで、マッケインに絶対に投票するという行動を起こされる逆効果を恐れたからだ。

本書で取り上げられている政治コンサルタントたちは皆、データに基づき、いかに適切なメッセージを効率よく、ターゲットとなる有権者に届け、投票させるかという点について研究熱心である。ダイレクトメールと電話と戸別訪問のどれが有効か。新しい1票を獲得するには333通のダイレクトメールが必要だと言われる。メールのデザイン、印刷、郵便代を勘定すると1票あたり80ドル相当の計算になる。

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

キャンヴァシングと言われる戸別訪問は多大な労力を要するが、最も有効な手段である。これは民主党支持者が都市部に多いことから、民主党に有利な手段である。ワシントン市内からも毎週末、お隣の激戦州ヴァージニアでの戸別訪問に行くボランティアを乗せるオバマ陣営が手配したバスが出ている。

民主党に対抗すべく、2000年、ブッシュ陣営は民間企業がまとめた全米市民の消費者レポートを購買し、消費行動と人口構成、政治信条を関連させ、ターゲット別のメッセージを生み出し、大成功した。

投票率が年々下っており、いかに有権者に投票するという行動を起こさせるかが重要なカギとなっているため、行動学の進歩も活用されている。2006年、政治学者3名が有権者自身と隣人達の投票歴に、「選挙後にも新しい結果を送付する」と一言、添えた郵便物を送ったところ、投票率を上げるのに大変に効果があった。リスクを嫌う政治家自身はこの手法は採用しなかったが、女性権利団体がコロラド州でこれに類似した書簡100万通を民主党寄りの有権者に送り、選挙前の世論調査では不利だった民主党候補が当選を果たしている。勿論、この手法の効果だけで、この候補が当選したと断言はできない。しかし、実際にテストされている色々な手法は、他の手法よりも信頼できる。

過去半世紀における政治キャンペーン手法の進歩について学ぶのに、貴重な一冊だ。

（NEW LEADER 2012年10月号より転載）

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

連載小説「ワシントン・スクランブル」
～第十話　クリスマスプレゼント～

愛川 耀

～前回までのあらすじ～　ワシントンに駐在する新庄透は若い黒木アリサに惹かれ彼女のアパートで一夜を過ごした。アリサから妊娠したと告げられて狼狽したが、自分の子ではないことが判明して安堵した透の元に妻の幸子から電話が・・。

●●●●●●●●●●●●●

電話の声は妻の幸子だ。怒りを滲ませているというより、怯えている声だった。
「何の話だ？」
昼間はご機嫌だった幸子が怒っている理由がわからず、透は戸惑う。
「ベッツィーに今聞いたの。あなたが日本人の女の子と道で抱き合って彼女のアパートに消えたって。本当なの？」
まったく思い掛けないところから攻撃を受けた、という思いだ。透は咄嗟に否定する。
「莫迦だな、そんなはず、ないじゃないか。この俺が？冗談だろう」
前に何かで読んだのだ。浮気が発覚した時には必ず否定しろ、と。
しばらくの沈黙の後に、幸子が少しは冷静さを取り戻した声で続けた。
「でも彼女は、誓ってその男はあなただって言っているわ」
いったいベッツィーという女はどこに隠れて見ていたのだろう。いや、通りに人がいるかどうかなど、あの時はアリサ以外の誰にも一切無関心だったから、たとえすぐ隣に立たれていたとしても気づかなかったかもしれない。
「そんな戯言を本気にするなよ。アメリカ人には日本人の男なんてどれも同じに見えるだけだよ」
やれやれ、という声音で透は嘯く。
「そう」
短く言ったまま、幸子は無言だ。俺を信じろよ、と出掛かった言葉を透は呑み込んだ。
「私、課題が入ったから、今夜は遅くなる。彼女のところに又泊めてもらうかもしれない」
一方的にそう宣言すると、幸子は電話を切った。
携帯を握り締めたまま、ヤバイことになった、と透は額に汗をかく。
いや、否定し続ければいいだけのことだ。少なくとも自分はアリサとコトを起こしたわけではなかったし、これは浮気であって浮気ではないのだ。美しい若い女性にちょっと惹かれた、ただそれだけのことだ。
アリサの面影を思い起こそうとして、透は妻幸子の先ほどの笑顔を思い浮かべてしまった。幸子に去られたら、と考えると、正直言って怖い。事実がバレる前に、何でもなかったのだ、と正直に告白して謝っておいた方が良いのだろうか。
いや、そんな莫迦なことをして無用な波風を起こす必要はないはずだ。
透は深い溜息を突くとオフィスを出て待つ人のいない自宅へ向かった。

ワシントンの街はクリスマスの飾り付けで華やいでいる。
幸子はあれから何もなかったような顔をして自宅と大学を往復しており、透も毎日を平穏に過ごしていた。だから、アリサから突然電話をもらって逢いたいと言われた時には内心焦った。しかし、是

＊愛川耀氏（ペンネーム）はJCAW会員。ブログでワシントン生活を綴るフォトエッセイを連載中。（http://blogs.yahoo.co.jp/aikawaakihome）東日本大震災一周年を機に小説『絆』を上梓（http://p.booklog.jp/book/43069）

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

非お話したいことがあるので、とせがまれて断るわけにはいかないし、透としても声を聴いた途端に彼女の顔が無性に見たくなった。

待ち合わせに指定したのはダウンタウンにあるウィラード・ホテルのカフェだ。今度こそ幸子やその友人と絶対蜂合わせしたくはない。

カフェに着くとアリサは既にテーブルに座っており、こちらに元気良く手を振ってくれた。見覚えのある毛糸のキャップに、透の胸が少し熱く痺れる。

「赤ちゃん、元気か？」

アリサの大きなお腹に気づいて透は躊躇いがちに声を掛けた。

「ええ。元気に育っています」

この子は自分の子供だ、と思っていた日々があったのだ。そう思い返すと、懐かしさというより急に歳を感じた。娘のような歳のアリサが子供を産む。自分もそういう歳なのだ。

妊婦のアリサにはジュースを自分にはワインを注文し、生ハムの盛り合わせやサラダをつまみに頼んだ。

「で、話って？」

「言うべきかどうか迷ったんですけれど、二週間ほど前に奥さんが店に見えました」

突然の話に、透は飲んでいたワインを思わず気管支に入れそうになり、むせた。

二週間ほど前というと、カフェ・レオポルドでランチを食べ幸子がオフィスに電話をして来た頃だ。どういう話をしたのか、聞きたいようで聞きたくない。

「すまない。君に迷惑を掛けちゃったかな」

狼狽を隠せない男の声に、我ながら情けなくなった。

「迷惑なはずないですよ。新庄さんの奥さんに店でたくさん買い物していただきました。学校のお友達にも紹介して下さって、大助かり」

いったいどうなってんだ、と透は困惑する。しかし知りたいのはただ一点、幸子に不倫がバレているのかどうかということだけだ。

「で、幸子は君に何を言いに行ったの？」

透の質問には答えずに、アリサは身を乗り出して茶目っ気のある顔をこちらに向けた。

「すごい綺麗な奥さんですね。新庄さんのこと、見直しました」

「大人をからかうもんじゃないよ」

照れ隠しもあり透は怒った声を出す。

「奥さんは私のことを偵察にいらしたみたいです。名前を尋ねたら新庄っておっしゃったから、もしかして東亜興産の、ってお尋ねしたの」

面白がっているのかアリサは窺うような視線でこちらを見た。透は手に冷や汗をかく。

やはりそうだったのだ。そしてアリサは俺たちの関係を妻にバラしたのだろうか。

「奥さんはお友達に頼まれて私のことをチェックしに来たみたいだった。スティーブの元彼女が奥さんのお友達なの。これって奇縁ですよね」

なんだ、そうだったのか、と透は思わず安堵の吐息を洩らした。その友人とはこの前逢ったベッツィーという女性に違いない。しかし、安堵したのも束の間で、アリサが続けた。

「だから私、新庄さんのおかげでスティーブが子供を産むことを認めてくれた、って新庄さんのこと持ち上げておきました」

透の背筋に冷たいものが走った。

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

ということは自分がアリサと関係があることはバレバレなわけだ。勘の良い幸子のことだから、アリサと抱き合っていたのを否定した嘘も割れているに違いなかった。
「どうかしました？」
アリサが心配そうな顔でこちらを覗き込んでいる。
「いや、何でもないよ」
どういう顔をして幸子に顔を合わせようか悩んでいる透の傍で、アリサが続けた。
「奥さんがね、元気な子供を産んでね、って励ましてくれたんです。私、奥さんの友達からボーイフレンドを奪った悪い女だし、この際彼と別れようかどうかまだ迷っているぐらいですけれど、子供が一番でクヨクヨすると体境に悪いから、って言われて」
そこまで言うとアリサは手を伸ばして透の手を握った。
「私、日本へ帰って子供を産むことにしました。すべてはそれから考えよう、と思って」
「それは、よかったね」
透はアリサの手にもう片方の手を添えて彼女の手を包んだ。男と別れるかもしれない、との先ほどの台詞が耳で響いたが、その残響を消すように透はアリサに微笑した。

今年のクリスマスは盛大にやろう、と透が提案すると、幸子は訝った顔付きでこちらを見た。先ずはクリスマスツリーだ。人工のツリーで十分じゃない、と幸子は言ったのだが、透はどうしても本物のモミの香りがするツリーを家に飾りたくなった。幸子と一緒に近くのツリーファームに出掛けて枝振りの良いモミの木を選び、車の上に括りつけて持ち帰り、二人で両端を掴んで重いツリーを家に運び入れる。
ツリーのオーナメントをどうするか、は幸子に選ばせた。インテリア雑誌を好んで読む彼女の方が趣味が良い。透がモミに丹念に豆電球を巻き付け二人でオーナメントを飾り付けるとホテルにあるような豪華なツリーが完成した。
せっかくツリーを綺麗に飾ったからと友人夫妻や単身赴任仲間を集めてパーティーを催すことにする。所長宅に備え付けの家具がイマイチ気に入らない幸子はクッションやクロスを買い揃えて、応急処置よ、と笑っていた。
料理はケータリングでいい、と透は思ったが、メインはやっぱり作らなくちゃ、と幸子は言い張る。一番失敗の無い料理、ということでローズトビーフを用意した。これを薄く切って皿に並べると大輪の薔薇のような華やかさだ。タレはおろしマスタード醤油。野菜も蒸したり焼いたり、手間を掛けなくても一応豪勢な皿が並び、スパークリングワインと赤ワインをケースで買って皆にもてなした。
さてクリスマスイブだ。透はプレゼントの交換などしない家に育ったのだが、幸子の家はクリスマスだ、誕生日だ、とギフトを交換する家族で、結婚当初はクリスマスに何か贈り物をすることにしていたものだ。一緒に買い物に行き互いにプレゼントを買いっこするわけだが、二人とも忙しくて近年はギフトの交換を省略していた。今年は透にちょっと考えがある。
イブはレストランも混んでいるから、と家で食事をすることにして、透はキッチンでステーキを焼いている。玄関の呼び鈴が鳴ったので、隣でサラダを作っている幸子に応対してくれるよう頼んだ。
玄関が開く音、そして犬の鳴き声。
「あなた！」
幸子の嬉しそうな声に透は玄関ロビーに立つ妻に近づき、戸口に置かれたバスケットの中から首に紅いリボンを結んだ子犬を抱き上げた。
「気に入ってもらえたかな」
もちろんよ、と幸子は夫の腕から受け取った子犬をしっかり抱き締めて頬ずりした。（了）

●●●●●●●●●●●●●

【執筆後記】 ワシントンは単身赴任者の多い街、夢多き（？）男性読者の方々のために小説『ワシントン・スクランブル』を執筆いたしました。一年間のご愛読をどうも有り難うございました。 愛川耀

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

今月の簡単レシピ：
「とっても簡単、手作りおもち」

フードクリエイター　木内 由紀

街はカラフルに染まっていてきれいですね。師走にはいりましたこの時期は行事も多くみなさんも忙しくされている事でしょう、空気がぐっと乾燥して来ましたので風邪などひかれませんよう、こまめにウガイを心がけて元気に冬を越して下さい。

さて、私の頭の中は既にホリデーシーズンを通り越してお正月準備に取り掛かっています。昨年は、お節の中からレシピをひとつご紹介しましたが、今年はお節とともに欠かせない日本のお雑煮に、ポトンと落とせるお餅(風)をご紹介します。
お餅つきしなくても、あっという間に出来てしまいますので、お雑煮以外にも出来立てを[もちもち五平餅]という感覚でどうぞ。

お醤油＋海苔で磯辺、きな粉＋砂糖、くるみ＋砂糖、すりゴマ＋砂糖、小豆あん、そしてお醤油＋砂糖＋バターなんていうのも格別で、うちでは大人気のおやつです。
ゆっくり時間が流れるホリデー休み中に、家族で囲んでお餅作りも楽しいですね。
長期保存もOKですよ。

今年もレシピを参考にして頂いてありがとうございました。来年もどうぞよろしくお願い致します。

手作りおもち(12～13個)
≪材料≫
・もち米：：2合(360cc)
・水：：290cc
・粗塩：：小さじ1/2

≪作り方≫
【炊飯器で炊く場合】
【1】もち米はといで一度ザルにあけてから釜に入れ、水を加え30分以上浸す。その後塩も混ぜ合わせスイッチオン、炊き上がってから10分蒸らす。

【2】釜をジャーから外し、木ベラ(水でぬらしながら作業する)で粘りが出てくるように米を潰すようにグルグルと全体を5～6周混ぜる。

【3】粘り気が出てひとまとまりになったら、表面を濡れ布巾で覆い、手作業出来る温度になるまで冷ます。

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

【3】粗熱がとれたら、手を水で濡らし（またはラップを使用しても良い）ゴルフボール程度のボール形にし（1個＝約40g）、1cm程度に潰し丸型を作る。

【4】いろいろ味を絡めて頂きます。
磯辺焼きにする場合は、両面に薄く醤油を塗り、薄く油をひいたフライパンで両面こんがりと焼き、海苔を巻いてどうぞ。

【鍋で炊く場合】
●工程[1]塩をまぜ合わせた後、蓋をして弱火から中火で加熱し、蓋から小さな蒸気が出てきたら（加熱し始めて8～10分が理想）火を弱め更に10分加熱後、火からおろし10分蒸らし出来上がり⇒工程[2]へ進む。
（鍋は蓋が重く密封性のあるものが理想です。もち米は浸水が早くこげやすい為、鍋で炊く場合はうるち米の時よりやや弱火で調理します。）

≪ポイント≫
●会報10月号のおこわでは、米の浸水はせずに炊きましたが、もちを作る場合はしっかり浸水してから炊きます。
●お雑煮や焼きもち用に保存する場合は、冷めてからコーンスターチ（片栗粉でもOK）を表面全体に覆い、余分な粉をはたいて一つ一つピッチリラップし冷凍します。1ヶ月程度の保存OK、解凍後はオーブンで焼いてからどうぞ。
●もち米はアジア系のスーパーでSweet Riceとして売られていますが、アメリカのスーパー米コーナーで縦長いタイ米のもち米も手軽に買う事が出来ます。
●トップの写真は[磯辺焼もち]と[ローストしたクルミを砕いたもの＋ブラウンシュガー]。

• • • • • • • • • • • • • • •

～フードクリエイター　木内由紀プロフィール～
日々の料理や手作りパン、スイーツのレシピなど1,000以上を、ブログ「ゆちのお料理実験室」で紹介。
簡単でおいしい内容が人気を呼び、テレビや雑誌、企業にも多数レシピを提供している。
現在アメリカ、ワシントンDC近くバージニア州にて活動中。
ブログ：http://oryorijikken.blog48.fc2.com/

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

English Rescue by Jennifer：「日本人が間違いやすい英語表現⑲」

ジェニファー・スワンソン

From September, we started a general review of Verb Tenses, starting with the basics:

Expressing the Future in Time Clauses and IF Clauses

Time/If Clause = Time word + Subject + Verb

Time words = before, after, when, as soon as, until, while, if

For example: Before I go home tonight, As soon as my plane arrives, etc.

<<<<<RULE: The simple present is used in a future time clause, WILL and BE GOING TO are NOT used in a future time clause.>>>>>

Correct: Before I go to class, I am going to eat breakfast.

Incorrect: Before I will go to class, I am going to eat breakfast. (Do not use WILL in the future time clause!!)

Correct: If it rains tomorrow, the game will be cancelled.

Incorrect: If it will rain tomorrow, the game will be cancelled. (Do not use WILL in the future time clause!!)

Try your knowledge:

1. Before I _____ (return) to Japan next year, I am going to sell my car.
2. The boss will review your report as soon as she _____ (finish) her phone call.
3. When you _____ (be) in England next month, you should visit Oxford.
4. If it _____ (be, not) cold tomorrow, we'll go to the beach.

Answers: 1) return, 2) finishes, 3) are, 4) isn't

～Jennifer Swanson プロフィール～

日本にて7年在住中に、高校英語教師の経歴を持ち、日本企業でも働いた経験を生かし、現在は米国大学講師、日米協会講師、在米日本人に英語レッスンの他、米国人に日本語も教える。日米でのさまざまな経験を基に、多方面から楽しい英語レッスンを展開しています。
日米協会英語レッスンでは第7期生徒を募集中です。詳しくは：http://www.us-japan.org/dc/pdf/2011/ELS%20Spring%202011%20Registration.pdf

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

12月号編集後記

師走ともなると、走り回るのはお坊さんだけではないようです。
今年は、世界中で選挙が行われてきましたが、日本でも時ならぬ衆議院議員選挙で、候補者が当選目指して走り回る羽目となってしまいました。
ここワシントンでも、在外選挙人登録された日本人の方々は投票したでしょうか。
アメリカ政府は、結果がどうであれ、首相が頻繁に替わることのない政権を望んでいるものと思います。

今年は、桜に始まり桜に終わるということで、日米協会　神尾さんから東京からワシントンへの桜寄贈100周年記念事業として商工会が実施した日本語教育支援にも触れたACTFL2012の紹介記事を寄稿していただきました。また、桜100周年で中心的役割を果たしてきた米山理事が帰任することとなり、最後に商工会への熱いメッセージをいただきました。

年末を迎え、連載記事にも動きが。大統領選を中心に米国の政治を追ってきた袴田さんの「DCじゃ～なる」と、毎月ドキドキしながら読んでいた愛川さんの連載小説「ワシントン・スクランブル」が最終回を迎え、一方で硬派グルメの新連載「グルマン会、ワシントンの食を語る」が始まりました。

今年1年のご愛読ありがとうございました。これからも皆様に楽しんでいただける紙面作りを心掛けてまいります。
皆様のご意見をお待ちしています。

最後に、新年を迎える皆様のご多幸をお祈りしています。

花井・伊藤

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。